

スイレンのイメージ構造の日タイ比較研究

130441145 三森 仁義
川澄研究室

1. はじめに

各国の消費者の嗜好に合致した花き製品の色彩の開発を目指して、これまでに 71 の形容詞を用いてスイレンに求めるイメージを調査した[1]。その結果、日本人とタイ人では、beautiful, natural, pure が共通に求められるイメージであることが分かり、また、言語イメージスケール上で日タイのイメージ構造の差異を確認できた。

本報では、SD(Semantic Differential)法を用いた評価実験により、3 形容詞とその他の形容詞との関係性、および、日タイ間の差異について詳しく調べる。花き製品としてスイレンを注目し、本研究は、Rajamangala University of Technology Thanyaburi(タイ)の Lotus Museum および Kitirochna Rattanakasamsuk 先生の協力を得ながら取り組んだ。

2. 実験方法

色や形が異なる 9 種類のスイレンの写真画像を対象に、イメージを表す 20 対の形容詞を使用し、SD 法で 7 段階評価してもらった(図 1)。形容詞は従来研究を参考に、日タイで共通に求められる beautiful, natural, pure のほか、vivid や pale などの色彩に関する形容詞、hard や heavy などの低次の感覚を表す形容詞などで構成した。評価用紙は日本語とタイ語で用意し、母国語で回答できるようにした。被験者は日本人 98 名、タイ人 99 名の協力を得た。

3. 実験結果

SD 法の結果を主成分分析した結果、主成分 4 までで累積寄与率が 60% を占めた。表 1 に主成分 1 と主成分 2 の結果を示す。日タイともに主成分 1 に pure があられ、純粋さが最大の成分であることが分かった。ただし、日本では pale や light が、タイでは soft や delicate も含まれ、ニュアンスに違いがみられた。主成分 2 は日本では cheerful が、タイでは simple があられ、日タイでの方向性が異なることが分かった。主成分 3 では manly が、主成分 4 では cool が日タイともにあられた。また、日タイのイメージ構造を比較するため、SD 法の結果をグラフィカルモデリングにより分析した(図 2)。図中の数字は、+ が正の相関、-

- は負の相関を示す。beautiful, natural, pure との関係性は、日タイともに elegant と相関が高いことがあわれた。ただし、日本では holy と、タイでは impressive と flashy とも相関が高く、強く結合していることが確認できた。

4. まとめと今後

SD 法によりスイレンのイメージ評価実験を日本人とタイ人に対して行い、主成分分析とグラフィカルモデリングにより分析した結果、新たに pure, cheerful, simple, plain, manly, cool といった開発目標とすべきイメージを絞り込むことができた。

今後は、目標イメージを向上させる色彩の条件についてカラーシミュレーション実験により検討する予定である。

参考文献

- [1] 森山なな, 秋田昌也, カムロンヨンスエ, 川澄未来子: 花き製品に対する色彩嗜好のアジア比較研究のための感性品質調査, 第 13 回情報学ワークショップ, pp.163-168 (2015)

表 1: 主成分分析結果(一部)

日本		タイ	
形容詞	得点	形容詞	得点
主成分1			
pure	0.727	pure	0.741
pale	0.686	soft	0.734
holy	0.604	delicate	0.727
calming	0.596	bright	0.671
delicate	0.576	flashy	0.662
soft	0.569	beautiful	0.632
⋮	⋮	⋮	⋮
主成分2			
cheerful	0.716	simple	0.595
beautiful	0.612	pale	0.568
flashy	0.605	plain	0.567
⋮	⋮	⋮	⋮

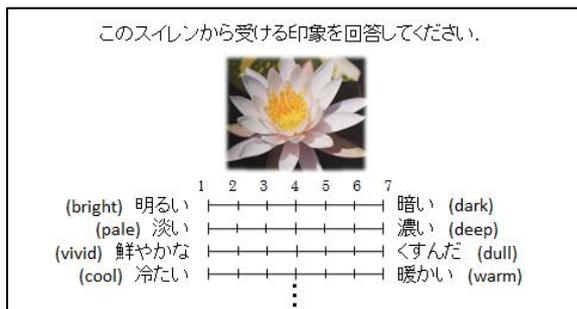


図 1: 評価用紙(一部)

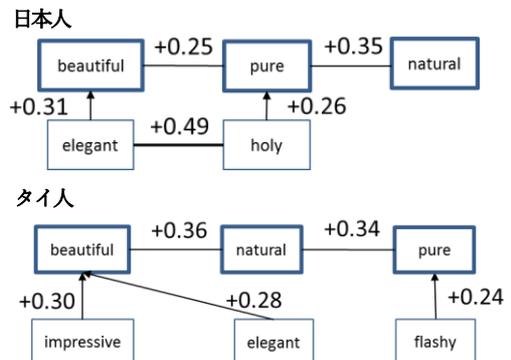


図 2: グラフィカルモデリング結果(一部)